

自 2020年4月 1日
至 2021年3月 31日

2020年度 事業報告書

公益財団法人 情報通信学会

2020年度事業報告書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

概況

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学会運営に多くの困難が生じた中、学会大会、国際コミュニケーション・フォーラム及び研究会等の学会行事をオンラインにて開催するという新たな試みを行った。秋季国際コミュニケーション・フォーラムは、ハイブリッド方式（現地開催及びWeb開催の併用）でも開催し、新しい形態の学会行事の在り方の先進事例の一つとなったといえる。当面継続と予想されるこの状況下において、情報通信が社会を支える役割、そしてメディアが正しく情報を伝える役割は急速に高まり、学会としてその名の通り引き続きICTを活用した学会活動を活発に行っていく。また、学会の国際化の取り組みの一つである英文ブックシリーズについても、第2巻「Perspectives on the Japanese Media and Content Policies」を2020年11月に出版し、次年度以降も継続して出版予定である。

財政面に関しては、収支状況が改善されたかにみえるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響という外的要因によるものである。次年度以降についても、引き続き経費の見直しが必要とされる。

I 学術大会、国際フォーラムの開催事業（公益目的事業1）

1. 2020年度春季（第42回）及び2020年度秋季（第43回）情報通信学会大会

2020年度春季（第42回）情報通信学会大会は、7月4日（土）、7月5日（日）の2日間にわたり、関西大学梅田キャンパスにて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染が拡大している状況を鑑み、一堂に会して大会を開催することが困難と考え、7月4日（土）、オンライン（Zoom Cloud Meetings を利用）にて開催した。個人研究発表として学生セッション（アーリーバード）発表、一般セッション発表が行われた。また、個人研究発表学生セッションにおいて優秀な1発表に対しアーリーバード発表賞を贈った。本大会は「情報通信月間」の参加行事である。参加者は124名。

2020年度秋季（第43回）情報通信学会大会を12月5日（土）、オンライン（Zoom Cloud Meetings を利用）にて開催した。個人研究発表として学生セッション（アーリーバード）発表及び一般セッション発表、研究会による研究会報告並びに総務省の特別報告として「『令和2年度版情報通信白書』の概要」が行われた。本大会においては、個人研究発表学生セッションにおいて優秀な1発表に対しアーリーバード発表賞を贈った。参加者は115名。

*プログラム等詳細は別紙1

2. 2020年度春季（第42回）国際コミュニケーション・フォーラム及び2020年度秋季（第43回）国際コミュニケーション・フォーラム

2020年度春季（第42回）国際コミュニケーション・フォーラムは、7月4日（土）、関西大学経済・政治研究所「エキシビジョンとツーリズム」研究班、公益財団法人KDDI財団と共催し、関西大学梅田キャンパスにて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染が拡大している状況を鑑み、一堂に会してフォーラムを開催することが困難と考え、オンライン（プラットフォーム：Zoom ウェビナー）にて開催した。テーマは「ポスト・パンデミックにおける博覧会とツーリズムー2025 大阪・関西万博でICTに期待されるもの」とし、基調講演に齋藤精一氏（ライゾマティクス・アーキテクチャー主宰）を招き、講演いただいた。金沢大学国際基幹教育院の井出明氏、関西大学の村田麻里子氏、博覧会愛好家の二神敦氏によるショートプレゼンテーションがあった。引き続き基調講演、ショートプレゼンテーションの登壇者4名にてパネル・ディスカッションが行われ、モデレータは関西大学の岡田朋之氏が務めた。本

フォーラムは「情報通信月間」の参加行事である。参加人数は178名。

2020年度秋季（第43回）国際コミュニケーション・フォーラムは、12月5日（土）、専修大学、公益財団法人 KDDI 財団、早稲田大学アジア太平洋研究センター、第5世代モバイル推進フォーラム（5GMF）、早稲田大学リサーチイノベーションセンターとの共催、公益財団法人電気通信普及財団の協賛で、専修大学神田キャンパスと Zoom ウェビナーにてハイブリッド方式で開催した。テーマを「デジタル社会変革による価値の発現に向けて—ローカル5G とスマートシティ—Unlocking the Value of Digital Transformation in the Social Sector— Implications for Local 5G and Smart City—」とし、はじめに、アールト大学教授(フィンランド)のヘイキ・ヘマイネン氏に講演いただいた。引き続きヘイキ・ヘマイネン氏に加え、パネリストとして総務省情報流通行政局の金澤直樹氏、株式会社 KDDI 総合研究所の大谷朋広氏、一般財団法人マルチメディア振興センターの三澤かおり氏、早稲田大学の三友仁志氏が加わり、パネル・ディスカッションが行われた。モデレータは早稲田大学の稲田修一氏が務めた。参加者は129名。

*プログラム等詳細は別紙2

3. 2020年度関西大会

2020年度関西大会は、10月10日（土）～11日（日）に、関西大学梅田キャンパスにて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染が拡大している状況を鑑み、一堂に会して大会を開催することが困難と考え、10月2日（金）～16日（金）に、モバイルコミュニケーション研究会、モバイルメディア社会と「セカンドオフライン」現象に関する社会学研究グループ（関西大学研究拠点形成支援経費に基づく研究グループ）と共催し、2020年度関西大会をオンラインにて開催した。「Doubling of Reality—Everyday Lives in Post-Mobile Society」をテーマとし、基調講演に Adriana de Souza e Silva氏（North Carolina State University）に講演いただいた。Nanna Verhoeff（Universiteit Utrecht, Netherlands）、Ingo Schulz Schaeffer（Technische Universität Berlin, Germany）、Eric Lettkenmann（Technische Universität Berlin, Germany）、安田登氏（下掛宝生流能楽師）のパネラー講演があり、その後登壇者による3回のオンライン・リアルタイム・セッション（プラットフォーム：Zoomウェビナー）とBBS（電子掲示板）での討論が行われた。参加人数は10月2日（金）187名、10月9日（金）207名、10月16日（金）185名。

*プログラム等詳細は別紙3

II 研究会等実施、機関誌等刊行、研究顕彰事業（公益目的事業2）

1. 研究会・ワークショップの開催

以下の11の研究会が活動を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中止を余儀なくされた研究会もあり、年間計17回の研究会がオンラインにて開催された。また、ワークショップについては新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施しなかった。

<研究会>

- ① 情報社会研究会 （0回開催）
- ② 情報行動研究会 （1回開催）
- ③ モバイルコミュニケーション研究会 （4回開催）
- ④ 情報知財研究会 （1回開催）
- ⑤ 情報通信経済法学会研究会 （1回開催）
- ⑥ コンテンツビジネス研究会 （0回開催）

- ⑦ 災害情報と法と経済に関する研究会 (2回開催)
- ⑧ 地域5G研究会 (3回開催)
- ⑨ AIネットワーク法・政策研究会 (1回開催)
- ⑩ デジタル・エコシステム研究会 (2回開催)
- ⑪ 次世代ネット政策研究会 (2回開催)

<ワークショップ>

- ・情報通信ワークショップ (0回開催)

*研究会および情報通信ワークショップの詳細は別紙4

2. 情報通信学会誌及び英文ブックシリーズの発行

投稿論文、投稿論説、寄稿論文及び学会大会と国際コミュニケーション・フォーラムの講演録等を掲載した情報通信学会誌第38巻第1号～第4号(134号～137号)を発行した。なお、第1号・第2号(134号・135号)及び第3号・第4号(136号・137号)は合本による発行としているが、第3号・第4号の合本号については、2021年4月中旬の発行となった。電子媒体は、毎号をJ-STAGE(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsicr/-char/ja/>)において公開している。

発行部数は900部であり、会員に送付されるほか、42団体が定期購読を行っている。

また、学会における国際化の取り組みの一環である英文ブックシリーズについては、総務省の全面的な協力を得て、2020年1月に出版した第1巻「Telecommunications Policies of Japan」に引き続き、第2巻「Perspectives on the Japanese Media and Content Policies」が2020年11月に出版された。以降の巻については第3巻「The Second Offline: Doubling of Time and Place」の出版準備が進んでおり、2021年8月に出版予定である。

*情報通信学会誌各号及び英文ブックシリーズの詳細は別紙5

3. 論文賞の授与

2019年度発行の学会誌に掲載された論文の中から厳選な選考が行われた。その結果、2019年度論文賞は優秀賞、佳作ともに該当なしとなった。

III 管理部門

2020年度は、常勤職員2名体制で学会事業活動を支えた。

収支においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学会行事や会議等がオンラインにて開催されることが主となったことと、学会事業全般において経費節減に努めたことから、収支状況が改善されたかに見えるものの、外的要因によるものであり、根本的な改善とはいえない。今後も更なる事業費の見直し、会員数の増強等に引き続き取り組み、適正かつ効率的な事業運営に努める。

1. 会員の増減

2020年4月1日現在の会員数は、正会員(個人)636名、正会員(団体)1団体、学生会員2名、特別会員84名、賛助会員40団体であった。2020年度内に正会員(個人)26名、学生会員1名の入会があったものの、正会員(個人)34名、特別会員4名の退会があり、正会員(個人)、学生会員および特別会員を合わせた個人会員数は11名減の711名となった。賛助会員は、2団体の退会があり、38団体、126口となった。引き続き個人会員及び賛助会員の増強に向けて、役員を中心に入会の働きかけを行う。

*会員の増減状況及び会員種別構成については附属明細書に記載する。

2. 収支状況

2020年度正味財産増減計算書の経常収益計は19,534,470円、経常費用計は18,831,664円となった。経常収益のうち受取会費は17,445,200円、事業収益は600,200円であった。経常費用においては事業費が13,514,538円、管理費が5,317,126円であった。正味財産の期末残高は前年度より61,106円増の90,097,750円となった。

3. 評議員会及び理事会の開催

2020年度は評議員会を2回、理事会を5回、常任理事会を2回開催した。また、今後の学会運営について常任理事会及び理事会において検討が行われ、事業費の見直し、会員の増強への取り組みを含め、今後の学会の方針及び事業体制等が話し合われた。

*評議員会、理事会、常任理事会の詳細は別紙6

4. 委員会等の開催

事業企画委員会、研究企画委員会、編集委員会、関西センター委員会がそれぞれ別紙のとおり委員会を開催した。また、委員の負担を軽くするため、一部委員会のメーリングリストによる検討、書面会議による議決を行った。

- ・研究・事業企画委員会 (3回開催)
- ・編集委員会 (5回開催)
- ・関西センター委員会 (2回開催)

*委員会等の詳細は別紙7

事業報告の附属明細書

1. 会員の増減

【2020年度中の会員増減状況】

	正会員 (個人)	正会員(団体)		学生 会員	特別 会員	賛助会員		合計	
		団体数	口数			団体数	口数	個人	団体 (口数)
2020年4月1日 現在報告会員数	636	1	3	2	84	40	128	722	41 (131口)
年度内 増減	入会	26	0	0	1	0	0	27	0
	退会	△34	0	0	0	△4	△2	△38	△2
	増減計	△8	0	0	1	△4	△2	△11	△2
2021年3月31日現 在報告会員数	628	1	3	3	80	38	126	711	39 (129口)

2. 評議員・理事・監事

評議員、理事及び監事は、2021年3月31日現在は以下のとおりである。

評 議 員

(任期：2019年6月13日から2023年6月定時評議員会の日まで)

	氏 名	所 属
評議員	井上 泰浩	広島市立大学 国際学部 教授
同	神野 新	株式会社情報通信総合研究所 主席研究員
同	児玉 俊介	一般社団法人電波産業会 専務理事 *任期は2021年1月20日から2021年6月定時評議員会の日まで
同	佐藤 靖夫	日本電気株式会社 政策渉外部 担当部長
同	菅谷 実	慶應義塾大学 名誉教授／白鷗大学経済学部 客員教授 *任期は2017年6月14日から2021年6月定時評議員会の日まで
同	辻 正次	大阪大学 名誉教授／神戸国際大学 学長・経済学部 教授
同	永野 浩介	一般財団法人マルチメディア振興センター 専務理事 *任期は2020年6月19日から2022年6月定時評議員会の日まで
同	廣松 毅	情報セキュリティ大学院大学 客員教授／日本学術振興会 人文・社会 科学データインフラストラクチャー構築推進センター センター長
同	山下 東子	大東文化大学 経済学部 教授 *任期は2017年6月14日から2021年6月定時評議員会の日まで
同	山田 肇	東洋大学 名誉教授／特定非営利活動法人情報通信政策フォーラム 理事長

(五十音順・敬称略)

(注) 評議員 紀伊肇氏は2020年6月19日に、同 松井房樹氏は2021年1月20日にそれぞれ辞任した。

理 事

(任期 2019年6月13日から2021年6月定時評議員会の日まで)

	氏 名	所 属
会 長	三友 仁志	早稲田大学 国際学術院大学院アジア太平洋研究科 教授
副会長	川崎 賢一	駒澤大学 グローバル・メディア・スタディーズ学部 教授
同	実積 寿也	中央大学 総合政策学部 教授
常務理事	内山 隆	青山学院大学 総合文化政策学部 教授
同	江寄 正邦	一般財団法人海外通信・放送コンサルティング協会 理事長
同	岡田 朋之	関西大学 総合情報学部 教授
同	林 秀弥	名古屋大学 大学院法学研究科/同アジア共創教育研究機構 教授
理 事	大里 智之	NHK放送文化研究所 所長
同	河又 貴洋	長崎県立大学 国際社会学部 准教授
同	木村 幹夫	一般社団法人日本民間放送連盟 研究所長
同	三本松 憲生	株式会社情報通信総合研究所 ICTリサーチ・コンサルティング部 主任 研究員
同	庄司 昌彦	武蔵大学 社会学部 教授
同	新保 史生	慶應義塾大学 総合政策学部 教授
同	高崎 晴夫	株式会社KDDI 総合研究所 フューチャーデザイン1部門 研究員
同	田中 絵麻	明治大学 国際日本学部 専任講師
同	西岡 洋子	駒澤大学 グローバル・メディア・スタディーズ学部 教授
同	福富 忠和	専修大学 文学部 教授
同	宮崎 久美子	立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 教授/東京工業大学 名誉教授

(五十音順・敬称略)

(注) 理事 桑原俊氏は2020年4月30日に、同 小川純子氏は2020年5月19日にそれぞれ辞任した。

監 事

(任期 2019年6月13日から2023年6月定時評議員会の日まで)

	氏 名	所 属
監 事	池川 博士	株式会社ドコモCS 元 常勤監査役
同	篠原 聡兵衛	KDDI株式会社 渉外・広報本部 渉外部マネージャー

(五十音順・敬称略)

*評議員、理事及び監事の所属先はいずれも2021年3月31日現在の役職を記載

2020 年度春季（第 42 回）情報通信学会大会

開催日程 2020 年 7 月 4 日（土）10：00～14：00
場所 オンライン開催（Zoom Cloud Meetings を利用）
主催 公益財団法人情報通信学会
協賛 情報通信月間推進協議会 ＊情報通信月間参加行事

○プログラム

個人研究発表（学生の部）、個人研究発表（一般の部）

<個人研究発表>

学生の部（アーリーバード）

1. 住宅利用者の意見を取り入れた高齢者向けスマートホームに関する研究—サービス付き高齢者住宅をケーススタディとして—
星野雅人（芝浦工業大学大学院）、中村広幸（芝浦工業大学）
2. 未成年者のネットリスク低減策に対する社会負担可能性の分析—SNS 上の被害軽減システムを対象とした実証分析—
田中大智（中央大学大学院）、実積寿也（中央大学）、高口鉄平（静岡大学）
3. 日本およびアジア諸国における携帯事業の効率性分析
近藤勝則（早稲田大学大学院）
4. フェイクニュースに対する警告タグは有効なのか—日本大学生を対象とした検証—
陳晗（立命館大学大学院）、寶雪（立命館大学）
5. 日韓におけるフェイクニュースとファクトチェック—メディアに対する評価と拡散要因を中心に—
徐映京（早稲田大学大学院）
6. 中国市場におけるインバウンドプロモーションにソーシャルメディアの役割—日本政府観光局のウェイボーアカウントを中心に—
段乃瑋（駒澤大学大学院）

一般の部

1. 中国 5G 産業政策とデジタル社会の持続的発展 華金玲（慶應義塾大学）
2. 個人情報保護利活用集中処理機構の構想—個人情報の保護と利活用を両立させるために
田中辰雄（慶應義塾大学）
3. ハードウェア・サプライチェーンにおける米国の法政策・標準の動向—セキュリティと知的財産の観点から— 橘雄介（KDDI 総合研究所）
4. デジタル・プラットフォームと個人に係る情報の流通について
上田昌史（マルチメディア振興センター）
5. 乳幼少年期の情報通信環境についてのオントロジック的考察—育児を中心とした視点—
森田英夫（DTK 企画）
6. 高齢者の認知・視覚機能を考慮したクローズドキャプションのモデル提案
稲瀬達也（情報環境研究所）、中村広幸（芝浦工業大学）
7. 自治体におけるデータと情報の関係性 本田正美（関東学院大学）

8. 情報通信分野の大型合併を巡る米政府の方針—T-Mobile/Sprint、AT&T/Time Warner の事例—
山條朋子 (KDDI 総合研究所)
9. ネット中立性規制の所得分配効果について—マルチエージェント・シミュレーションによる推定—
実積寿也 (中央大学)、鳥海不二夫 (東京大学)、高口鉄平 (静岡大学)
10. 太平洋島嶼国における海底ケーブル・ブームとその課題—デジタル・デバイドは解消されるか—
山下東子 (大東文化大学)
11. フェイクニュース拡散行動の実証分析：日本におけるフェイクニュースの実態と有効な対策
山口真一 (国際大学 GLOCOM)、菊地映輝 (国際大学 GLOCOM)、青木志保子 (国際大学 GLOCOM)、
田中辰雄 (慶應義塾大学)、渡辺智暁 (慶應義塾大学)、大島英隆 (慶應義塾大学)、
永井公成 (国際大学 GLOCOM)
12. Japanese News Media Portrayals of Fake News 日本のニュースメディアが描くフェイクニュー
ス John William, CHENG (津田塾大学)
13. 若年層における Twitter 利用に関する研究 大谷光一 (武庫川女子大学)
14. バーチャル YouTuber の肖像権—CG アバターの「肖像」に対する権利—
原田伸一郎 (静岡大学)
15. 中国の動画配信市場における日本の放送コンテンツの価値 大場吾郎 (佛教大学)
16. 中国インフルエンサープロモーション効果の要因分析—インフルエンサーファンの行動から
劉亜菲 (KDDI 総合研究所)、宮脇景子 (KDDI 総合研究所)、間瀬公太 (KDDI 総合研究所)
17. フィンランドにおける「Elements of AI」とソーシャル・イノベーション—市民向け AI オンライン
教材の要件にかかるとの考察— 田中絵麻 (明治大学)
18. AI 防災チャットボットのログデータ分析—台風 15 号・19 号時の災害情報を基に—
齋藤長行 (東京国際工科専門職大学)、福島直央 (AI 防災協議会)、
米倉隆介 (LINE 株式会社)、池田和人 (LINE 株式会社)、江口清貴 (AI 防災協議会)
19. インドにおける人工知能 (AI) 分野の研究開発の動向—AI 国家戦略「#AIFORALL」から見る
課題と今後の展望— 藍澤志津 (マルチメディア振興センター)
20. 新型コロナウイルスへの認知・対策行動とメディア利用 石井健一 (文教大学)
21. 新型コロナ対応で露呈した「オンライン教育後進国」日本！
城所岩生 (国際大学 GLOCOM)
22. 新型コロナウイルス対応の初動においてシビックテックが果たした役割と中長期的課題
庄司昌彦 (武蔵大学)

<アーリーバード発表賞：1 件>

1. 日韓におけるフェイクニュースとファクトチェッカーメディアに対する評価と拡散要因を中心に—
徐映京 (早稲田大学大学院)

2020 年度秋季（第 43 回）情報通信学会大会

開催日程 2020 年 12 月 5 日（土）10：00～15：10
場所 オンライン開催（Zoom Cloud Meetings を利用）
主催 公益財団法人情報通信学会
共催 専修大学

○プログラム

個人研究発表（学生の部）、個人研究発表（一般の部）、研究会報告、特別報告、総会

<個人研究発表>

学生の部（アーリーバード）

1. コロナ禍における新聞と Twitter の「デマ」比較
白井夏樹（法政大学学部生）、藤代裕之（法政大学）
2. 選挙期間外の Twitter 上における大衆の政治的コミュニケーション分析—英国の Brexit に関する議論を事例に—
渡邊浩樹（関西学院大学大学院）
3. SNS 上における他者の反応が警告タグの有効性に与える影響
陳晗（立命館大学大学院）、寶雪（立命館大学）
4. アバターにより非言語コミュニケーションを補う遠隔授業モデルの検討
杉森隼也（芝浦工業大学大学院）、中村広幸（芝浦工業大学）
5. The Direction of Technological Changes in Labor-surplus Economy -- The Theoretical Research and Empirical Research on the Chinese Economy
Junjun Li（早稲田大学大学院）
6. ゲーム理論を用いた携帯電話市場の参入障壁分析
早川論明（筑波大学大学院）、猿渡康文（筑波大学）

一般の部

1. ソフトウェアの「自由」や「オープンネス」の客観的定義とその変遷 八田真行（駿河台大学）
2. 肖像権のマルチモーダル化—アンドロイド・CG アバターの「姿」「動き」「声」の肖像権—
原田伸一郎（静岡大学）
3. 日本の情報通信産業における外国人 IT 技術者の歴史的展開—1980 年代以降の韓国からの移動に着目して—
松下奈美子（名古屋産業大学）
4. 個人情報の「事件」は人々の保護意識を変えるのか？ —リクナビ事件を例として—
田中辰雄（慶應義塾大学）
5. 新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)はなぜ効果を発現できないか--日中韓の比較およびデータに基づく分析--
三友仁志（早稲田大学）
6. テレワーク経験が地方移住意向に与える影響
畑中梨沙（KDDI 総合研究所）、藤原正弘（KDDI 総合研究所）、沖賢太郎（KDDI 総合研究所）
7. 個人データ利用に対する不安と SNS 等での自己情報開示の関連 堀川裕介
8. 情報伝達媒体と情報の分類とそして情報通信発展上の主要課題 森田英夫（DTK 企画）
9. キャッシュレス決済普及に関する政策介入の効果—インセンティブが消費者の決済選択行動に与える影響の実証分析—

山口真一（国際大学 GLOCOM）、中野暁（株式会社インテージ）、駒崎幹拓（株式会社インテージ）

10. ビッグデータ活用に関する先行研究調査からの将来研究課題の抽出について
高崎晴夫（KDDI 総合研究所）
11. 欧州におけるプロバイダ責任の動向—プラットフォーム・抑止・再分配の観点から—
橘雄介（KDDI 総合研究所）
12. 5G 国際競争を制するための米政府の施策と事業者の戦略 山條朋子（KDDI 総合研究所）
13. ポスト・パンデミックにおけるモビリティとツーリズムの可能性～参加型デザインを通じた実践的
検討 岡田朋之（関西大学）
14. データセンターの発展と集約 —サイバー空間の物理性への着目—
小宮山功一朗（慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート）

<特別報告>

1. 令和 2 年度版 情報通信白書の概要
報告者：藤井信英（総務省）

<研究会報告>

1. 情報行動研究会
報告：緊急事態宣言で人々の行動・意識は変わったか？
報告者：大野志郎（東京大学情報学環）、天野美穂子（東京家政大学）、
堀川裕介（大妻女子大学(非常勤)）、篠田詩織（NTT セキュアプラットフォーム研究所）
討論者：小笠原盛浩（東洋大学）
司会：橋元良明（東京女子大学）
2. 地域 5G 研究会
報告：5G サービスの利用動向調査
報告者：山田徳彦（白鷗大学経営学部教授）
コメンテーター：米谷南海（一般財団法人マルチメディア振興センター・
ICT リサーチ&コンサルティング部チーフ・リサーチャー）
司会：菅谷実（慶應義塾大学名誉教授）

<アーリーバード発表賞：1 件>

- ゲーム理論を用いた携帯電話市場の参入障壁分析
早川論明（筑波大学大学院）、猿渡康文（筑波大学）

別紙 2

2020年度春季（第42回）国際コミュニケーション・フォーラム

開催日程	2020年7月4日（土）14：30～17：30
場所	オンライン開催（プラットフォーム；Zoom ウェビナー）
テーマ	「ポスト・パンデミックにおける博覧会とツーリズムー 2025 大阪・関西万博で ICT に期待されるもの」
主催	公益財団法人情報通信学会
共催	関西大学経済・政治研究所「エキシビションとツーリズム」研究班、 公益財団法人 KDDI 財団
協賛	情報通信月間推進協議会
後援	総務省、日本電信電話株式会社、東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社、 株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、富士通株式会社、 日本電気株式会社、株式会社東芝、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社、 NHK、公益財団法人電気通信普及財団、一般社団法人日本民間放送連盟、 一般社団法人日本新聞協会、一般財団法人テレコムエンジニアリングセンター、 一般社団法人電波産業会、一般財団法人マルチメディア振興センター、 一般財団法人情報法制研究所

○プログラム

開会挨拶 三友仁志（情報通信学会 会長／早稲田大学大学院アジア太平洋研究科長・教授）

実行委員長挨拶 岡田朋之（情報通信学会 常務理事／関西大学総合情報学部 教授）

基調講演 「ポスト・パンデミックにおける博覧会とツーリズムー
ー2025 大阪・関西万博で ICT に期待されるもの」
齋藤精一（ライゾマティクス・アーキテクチャー 主宰）

ショートプレゼンテーション

「COVID-19 後の博覧会」 井出明（金沢大学国際基幹教育院 准教授）

「コロナ禍における展示空間の拡張(?) —ミュージアムのオンライン化の模索と葛藤」

村田麻里子（関西大学社会学部教授）

「博覧会を訪ねて 40 年目」 二神敦（博覧会愛好家）

パネル・ディスカッション

パネリスト：齋藤精一、井出明、村田麻里子、二神敦

モデレータ：岡田朋之（関西大学総合情報学部 教授）

閉会挨拶 実積寿也（情報通信学会 副会長／中央大学総合政策学部 教授）

<概要>

新型ウイルスによるパンデミックが世界を覆ったことにより、2020年に予定されていた二大メ
ガイベントである東京オリンピック・パラリンピックとドバイ国際博覧会はいずれも1年の延期を
余儀なくされた。現代社会のさまざまな領域における空間設計や行動様式の見直しが進むなかでは、
こうしたイベントのあり方もまた問いなおされる必要がある。同時にそれは、ICTの利活用のあ
り方や意味が問いなおされる場にもなるはずである。2025年に開催が予定されている大阪・関西
万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をメインテーマとし、「People's Living Lab：未来社

会の実験場」がコンセプトに据えられているが、来たるべき社会のモデルとしての博覧会には、具体的に何が求められるのであろうか。本フォーラムではそうした博覧会等の担い手となってきた方々、そして来場者、あるいは研究者として人々の動きを見つめてきた方々にご参集頂き、変化ののちのあるべき姿について議論を試みた。

2020年度秋季（第43回）国際コミュニケーション・フォーラム

開催日程	2020年12月5日（土）16：00～18：00
場所	ハイブリッド方式による開催（現地開催およびWeb開催の併用） 【現地開催会場】専修大学 神田キャンパス（東京都千代田区神田神保町 3-8） 【Web開催会場】Zoom ウェビナー
テーマ	デジタル社会変革による価値の発現に向けて—ローカル5G とスマートシティ— Unlocking the Value of Digital Transformation in the Social Sector — Implications for Local 5G and Smart City —
主催	公益財団法人情報通信学会
共催	専修大学、公益財団法人 KDDI 財団、早稲田大学アジア太平洋研究センター、 第5世代モバイル推進フォーラム（5GMF）、 早稲田大学リサーチイノベーションセンター
協賛	公益財団法人電気通信普及財団
後援	総務省、日本電信電話株式会社、東日本電信電話株式会社、 西日本電信電話株式会社、株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社、 ソフトバンク株式会社、富士通株式会社、日本電気株式会社、株式会社東芝、 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社、NHK、 公益財団法人電気通信普及財団、一般社団法人日本民間放送連盟、 一般社団法人日本新聞協会、一般財団法人テレコムエンジニアリングセンター、 一般社団法人電波産業会、一般財団法人マルチメディア振興センター、 一般財団法人情報法制研究所

○プログラム

会長挨拶 三友仁志（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 教授）

開催校挨拶 佐々木重人（専修大学 学長）

基調講演 「5G and Smart City Transformation in Europe」
ヘイキ・ヘマイネン（アールト大学 教授/フィンランド）

パネル・ディスカッション

モデレータ：稲田修一（早稲田大学リサーチイノベーションセンター 教授）

パネリスト：ヘイキ・ヘマイネン（アールト大学 教授、基調講演に引き続き）

金澤直樹（総務省情報流通行政局地域通信振興課 課長）

大谷朋広（株式会社 KDDI 総合研究所

執行役員コネクティッドネットワーク部門長）

三澤かおり（一般財団法人マルチメディア振興センター

ICT リサーチ&コンサルティング部 リサーチディレクター）

三友仁志（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 教授）

閉会挨拶 福富忠和（情報通信学会 理事／専修大学文学部 教授）

<概 要>

5Gを活用したスマートシティプロジェクトをフィンランドで展開しているアールト大学ハイキ・ヘマイネン教授を基調講演者に迎え、5Gの活用とスマートシティの形成に関する日欧比較を通じて、その課題や方向性を議論する。ローカル5Gの活用を念頭に、フィンランドを中心とした欧州で展開されるスマートシティを参考にしながら、新型コロナウイルスの感染拡大で加速したように見えるデジタル変革が、真に社会において価値を発現するためには何が求められるか、新たな知見を共有する。

2020年度関西大会

開催日程	2020年10月2日(金)～16日(金)
場所	オンライン開催
テーマ	国際シンポジウム 2020 「Doubling of Reality : Everyday Lives in Post-Mobile Society ポストモバイル社会における日常生活」
主催	公益財団法人情報通信学会、 公益財団法人情報通信学会モバイルコミュニケーション研究会、 モバイルメディア社会と「セカンドオフライン」現象に関する社会学研究グループ (関西大学研究拠点形成支援経費に基づく研究グループ)
後援	株式会社 NTT ドコモ モバイル社会研究所、一般社団法人ブロードバンド推進協議会、 社会情報学会、モバイル学会、関西大学社会学部メディア専攻

○プログラム

9月30日 招聘研究者講演映像公開

基調講演 Adriana de Souza e Silva(North Carolina State University, USA)

パネラー講演

Nanna Verhoeff (Universiteit Utrecht, Netherlands)

Ingo Schulz Schaeffer (Technische Universität Berlin, Germany)

Eric Lettkenmann (Technische Universität Berlin, Germany)

安田登(下掛宝生流能楽師)

10月2日 第1回オンライン・リアルタイム・セッション (Zoomウェビナー)

時間: 22:00-24:00(Japan) 15:00-17:00(Europe) 9:00-11:00(NY/NC)

・趣旨説明(富田英典: 関西大学教授)

・登壇者紹介

・ディスカッション

司会: 岡田朋之(関西大学教授)

パネラー: Adriana de Souza e Silva(North Carolina State University, USA)

Nanna Verhoeff (Universiteit Utrecht, Netherlands)

Ingo Schulz Schaeffer (Technische Universität Berlin, Germany)

Eric Lettkenmann (Technische Universität Berlin, Germany)

安田登(下掛宝生流能楽師)

10月3日～6日 BBS(電子掲示板)での討論

10月9日 第2回オンライン・リアルタイム・セッション (Zoomウェビナー)

時間: 22:00-24:00(Japan) 15:00-17:00(Europe) 9:00-11:00(NY/NC)

・ディスカッション

司会: 松田美佐(中央大学教授)

パネラー: Adriana de Souza e Silva(North Carolina State University, USA)

Nanna Verhoeff (Universiteit Utrecht, Netherlands)

Ingo Schulz Schaeffer (Technische Universität Berlin, Germany)

Eric Lettkenmann (Technische Universität Berlin, Germany)

安田登 (下掛宝生流能楽師)

モデレータ：松下慶太 (関西大学教授)、金暲和 (神田外語大学准教授)、
伊藤耕太 (関西大学非常勤講師・マーケティングプランナー)

10月11日～13日 BBS (電子掲示板) での討論

<https://secondoffline.com/door/bbsv.php?n=1>

10月16日 第3回オンライン・リアタイム・セッション (Zoomウェビナー)

時間：21:00-23:00(Japan) 14:00-16:00(Europe) 8:00-10:00(NY/NC)

- ・全体司会：藤本憲一 (武庫川女子大学教授)
- ・総括討論 Adriana de Souza e Silva(North Carolina State University, USA)
富田英典 (関西大学教授)

- ・全体ディスカッション

パネラー：Adriana de Souza e Silva(North Carolina State University, USA)

Nanna Verhoeff (Universiteit Utrecht, Netherlands)

Ingo Schulz Schaeffer (Technische Universität Berlin, Germany)

Eric Lettkenmann (Technische Universität Berlin, Germany)

富田英典 (関西大学教授)

モデレータ：松下慶太 (関西大学教授)、金暲和 (神田外語大学准教授)、
伊藤耕太 (関西大学非常勤講師・マーケティングプランナー)

閉会挨拶：岡田朋之 (情報通信学会 常務理事、関西センター委員会委員長/
関西大学教授)

<概要>

スマートフォンなどの移動体通信の普及により、人々は日常生活において常にネット上のオンライン情報を参照するようになった。本シンポジウムでは、このような現象をセカンドオフラインと呼ぶ。iPhoneの発売を契機にフィーチャーフォンからスマートフォンへの移行が始まった。人々はスマートフォンを使って、簡単にインターネットにアクセスできるようになった。さらに、Facebook, Twitter, WhatsApp, LINE, Instagramなどのソーシャルメディアが大衆化し、多くの人びとが日常生活(リアル/オフライン)において常にネット上の情報(バーチャル/オンライン)を参照するようになったのである。ポケモンGOを可能にしたモバイルAR技術の登場は、セカンドオフラインの姿を明確にしてくれた。

セカンドオフライン社会では、人々の時間と場所の感覚にも変化が生まれている。私たちは「同じ時間にふたつの場所に存在する」ことはできない。しかし、それを電子メディアが可能にした。メディアが異なる二つの場所を重ねることを可能にしたのである。Paddy Scannell (1996)は放送メディアに注目しこのような現象をDoubling of Placeと呼んだ。さらに、Shaun Moores (2012)は、インターネットやスマートフォンにおいても同種の現象が出現しているとし、Doubling of Placeの概念を再評価した。ただ、二重化しているのは「場所」だけではない。「時間」も二重化している。本シンポジウムでは、それをDoubling of Timeと呼びたい。エミー賞を受賞したiPhoneのテレビCM

『Misunderstood』(2013) や新海誠のアニメ映画『君の名は』(2006)、米国映画『The Lake House』(2006) では「時間の二重化」現象が描かれ人気を集めた。そこでは、「場所の二重化」が一種の理想として描かれている。「時間と場所の二重化」は、すでに現代社会の様々な場面に出現している。本シンポジウムでは、セカンドオフライン、Doubling of Time / Place という分析枠組みを設定し議論を行う。

セカンドオフラインという状態に発生する Doubling of Time / Place についての研究は日本ではまだ少ないが、海外では増えつつある。このシンポジウムでは以下の5名の研究者を招待する。その研究者は Adriana de Souza e Silva、Nanna Verhoeff、Ingo Schulz-Schaeffer、Eric Lettkemann、安田登氏である。Silva は mobile communication 研究をリードする研究者であり、Hybrid Reality、Net locality、Hybrid Play という概念で同種の現象を説明しようとしている。彼女には基調講演を依頼している。Verhoeff は移動性の土台である物質性について論じている。彼女は、都市空間のスクリーンというキーワードを掲げながら、主体の視覚的経験と操作実践が時空間の社会的あり方を変容させつつあることについて論じている。Schaeffer and Lettkemann (2020 印刷中) は、ベルリンと東京でのエスノグラフィーやインタビュー調査にもとづき、Locative Media 利用によって生み出される公的都市空間の新しい配置関係について研究している。彼らの研究プロジェクトの焦点は、Foursquare、Tabelog、Ingress などの Locative Media アプリが都市の日常生活における公的空間の占有をどのように補強または修正するかにある。能楽師の安田登(下掛宝生流能楽師)は能や六義園と AR の関係について注目し、能ワークショップや寺子屋「遊学塾」を主宰し、舞台だけでなく、対談や講演を行うなど、いまこの分野で最も注目されている。本シンポジウムではこの5名を招待し議論を深めたい。ここでの議論がこの分野の今後の研究の発展に寄与することを期待したい。

2020年度 研究会・情報通信ワークショップ開催状況

<研究会>

- ① **情報行動研究会** (主査：橋元良明 幹事：松田美佐) 1回開催
- ・2020年12月5日(土) 13:30~14:45 オンライン開催 (Zoom Cloud Meetings 使用)
「緊急事態宣言で人々の行動・意識は変わったか？」
報告者：大野志郎 (東京大学情報学環)、天野美穂子(東京家政大学)、
堀川裕介 (大妻女子大学(非常勤))、篠田 詩織 (NTT セキュアプラットフォーム研究所)
 - 討論者：小笠原盛浩 (東洋大学) 司会者：橋元良明 (東京大学)
- ② **モバイルコミュニケーション研究会** (主査：藤本憲一 幹事：富田英典・岡田朋之) 4回開催
- ・2020年6月27日(土) 13:00~15:00 オンライン開催 (YouTube Live)
「武士のAR 訓練センター「六義園」を歩く」
報告者：安田登 (能楽師)、討論者：伊藤耕太 (マーケティングディレクター、関西大学総合情報学部非常勤講師)、司会者：富田英典 (関西大学社会学部教授)
 - ・2020年10月2日(金) 22:00~24:00 オンライン開催 (2020年度関西大会との共催)
「Doubling of Reality : Everyday Lives in Post-Mobile Society ポスト・モバイル社会における日常生活 (1)」
基調講演：Adriana de Souza e Silva(North Carolina State University, USA)
パネリスト：Nanna Verhoeff (Universiteit Utrecht, Netherlands)、Ingo Schulz Schaeffer (Technische Universität Berlin, Germany)、Eric Lettkenmann (Technische Universität Berlin, Germany)、安田登 (下掛宝生流能楽師)、富田英典 (関西大学教授、モバイルコミュニケーション研究会)
司会：岡田朋之 (関西大学教授)
モデレータ：松下慶太 (関西大学教授)、金暲和 (神田外語大学准教授)、伊藤耕太 (関西大学非常勤講師・マーケティングプランナー)
 - ・2020年10月9日(金) 22:00~24:00 オンライン開催 (2020年度関西大会との共催)
「Doubling of Reality : Everyday Lives in Post-Mobile Society ポスト・モバイル社会における日常生活 (2)」
パネラー：Adriana de Souza e Silva(North Carolina State University, USA)、Nanna Verhoeff (Universiteit Utrecht, Netherlands)、Ingo Schulz Schaeffer (Technische Universität Berlin, Germany)、Eric Lettkenmann (Technische Universität Berlin, Germany)、安田登 (下掛宝生流能楽師)
 - ・2020年10月16日(金) 21:00~23:00 オンライン開催 (2020年度関西大会との共催)
「Doubling of Reality : Everyday Lives in Post-Mobile Society ポスト・モバイル社会における日常生活 (3)」
全体司会：藤本憲一 (武庫川女子大学教授)
(総括討論)
討論者：Adriana de Souza e Silva(North Carolina State University, USA)、
富田英典 (関西大学教授)
(全体ディスカッション)

パネラー：Adriana de Souza e Silva(North Carolina State University,USA)、
Nanna Verhoeff (Universiteit Utrecht,Netherlands)、Ingo Schulz Schaeffer (Technische
Universität Berlin, Germany)、Eric Lettkenmann (Technische Universität Berlin,
Germany)、富田英典 (関西大学教授)

モデレータ：松下慶太 (関西大学教授)、金暲和 (神田外語大学准教授)、伊藤耕太 (関西大学非
常勤講師・マーケティングプランナー)

- ③ **情報知財研究会** (主査：鈴木雄一 幹事：玉井克哉) 1回開催
- ・2020年12月3日(火) 18:30~20:30 オンライン開催 (Zoom Cloud Meetings 使用)
「フェアユース法理と裁判所の役割——Google v. Oracle 事件の合衆国最高裁での議論をめぐって」
報告者：玉井克哉 (東京大学教授・信州大学教授)
司会・コメンテーター：鈴木雄一 (信州大学特任教授)
- ④ **情報通信経済法学研究会** (主査：林秀弥 幹事：福田雅樹) 1回開催
- ・2021年3月11日(木) 13:00~15:30 オンライン開催 (Zoom Cloud Meetings 使用)
「台湾の電気通信事業分野における非対称規制の概要とその検討」
報告者：巫 昆霖 (名古屋大学法学研究科大学院研究生)、
討論者：福田 雅樹 (大阪大学社会技術共創研究センター総合研究部門長・教授 (兼))
同大学院法学研究科教授) 司会者：林 秀弥 (名古屋大学大学院法学研究科教授)
- ⑤ **災害情報と法と経済に関する研究会** (主査：林秀弥 幹事：井上禎男、西澤雅道) 2回開催
- ・2020年10月10日(土) 13:30~17:00 オンライン開催 (YouTubeによるライブ配信等)
「ウィズコロナ時代のコミュニティ防災」
登壇者：室崎益輝 (兵庫県立大学教授)、矢守克也 (京都大学教授)、加藤孝明 (東京大学教
授)、鍵屋一 (跡見学園女子大学教授)、磯打千雅子 (香川大学准教授)、金思穎 (専修大学研究
員)、西澤雅道(前福岡大学准教授/内閣官房)、坊農豊彦 (大阪市立大学特別研究員)
 - ・2021年3月6日(土) 9:30~17:30 オンライン開催 (YouTubeによるライブ配信等)
「ポストコロナ時代のコミュニティ防災」
登壇者：室崎益輝 (兵庫県立大学教授)、矢守克也 (京都大学教授)、加藤孝明 (東京大学教
授)、鈴木猛康 (山梨大学教授)、田中耕司 (大阪工業大学教授)、磯打千雅子 (香川大
学准教授)、西田佳弘 (大阪市立大学特別研究員)、西澤雅道 (前福岡大学教授/内閣官
房)、生田英輔 (大阪市立大学准教授)、小山真紀 (岐阜大学准教授)、中野元太 (京
都大学助教)、坊農豊彦 (大阪市立大学特別研究員)、金思穎 (専修大学研究員)
- ⑥ **地域5G研究会** (主査：菅谷実 幹事：山田徳彦、米谷南海) 3回開催
- ・2020年12月5日(土) 13:30~14:45 オンライン開催 (Zoom Cloud Meetings 使用)
報告：5Gサービスの利用動向調査
司会：菅谷実 (慶應義塾大学) 報告者：山田徳彦 (白鷗大学)
コメンテーター：米谷南海 (一般財団法人マルチメディア振興センター)
 - ・2021年3月9日(火) 9:30~11:30
「Beyond5Gの情報通信ネットワークの技術動向」
報告者：杉沼浩司 (日本大学)
 - ・2021年3月30日(火)
「情報通信ネットワークの新たな展開」
報告者：菅谷実 (慶應義塾大学)

- ⑦ **AI ネットワーク法・政策研究会**（主査：福田雅樹 幹事：成原慧） 1 回開催
- ・2021年3月19日（金）16：30～18：30 オンライン開催（Zoom Cloud Meetings 使用）
 - 「人工知能研究を形作ったものは何か？一歴史的観点から考える」
 - 主催：情報通信学会 AI ネットワーク法・政策研究会
 - 共催：大阪大学社会技術共創研究センター総合研究部門
 - 報告者：杉本舞（関西大学社会学部社会システムデザイン専攻准教授）
 - 討論者：成原慧（九州大学法学研究院准教授、AI ネットワーク法・政策研究会幹事）
 - 司会者：福田雅樹（大阪大学社会技術共創研究センター総合研究部門長・教授（兼）大学院法学研究科教授、AI ネットワーク法・政策研究会主査）
- ⑧ **デジタル・エコシステム研究会**（主査：岡田朋之、幹事：長谷川想、北村順生） 2 回開催
- ・2021年1月26日（火）16:30～18:00 オンライン開催（Microsoft Teams 使用）
 - 「同時配信・見逃し配信 NHK プラスについての現状や課題」
 - 講演者：赤岩 勇二（NHK デジタルセンター専任局長）
 - ・2021年3月10日（水）14：00～16：00 オンライン開催（Zoom Cloud Meetings 使用）
 - 「「キャラ縁」の聖地～現実と仮想（虚構）を架橋する「キャラ」～」
 - 報告者：谷村要（大手前学園大手前大学メディア・芸術学部 准教授）
- ⑨ **次世代ネット政策研究会**（主査：庄司昌彦、幹事：高口鉄平） 2 回開催
- ・2020年6月27日（土）14:00～17:00、2020年7月19日 14:00～17:00
 - オンラインワークショップ（Zoom Cloud Meetings 使用）
 - 「5G+スマホアプリを用いて with コロナ（新しい生活様式）の新アイデアを提案する」
 - 参加ゼミ：青森公立大学経営経済学部 木暮祐一ゼミ、関東学院大学人間共生学部 折田明子ゼミ、静岡大学情報学部 高口鉄平ゼミ、中央大学総合政策学部 実積寿也ゼミ、中央大学総合政策学部 中村周史ゼミ、武蔵大学社会学部 庄司昌彦ゼミ、明治大学国際日本学部 田中絵麻ゼミ
 - 特別講演：山形巧哉（北海道森町・行政アーティスト）
 - ・2020年12月12日（土）13:00～18:10 青森公立大学+Zoom Cloud Meetings にて開催
 - 参加ゼミ：実積寿也ゼミ（中央大学）「中央大学生のオンライン授業における満足度調査」、田中絵麻ゼミ（明治大学）「動画視聴の動機に関する調査」、木暮祐一ゼミ（青森公立大学）「あおりテイクアウトによる地域の飲食店支援」、高口鉄平ゼミ（静岡大学）「COCOA 分かってない人が「プライバシー怖い」って言うだけなんじゃないか」、庄司昌彦ゼミ（武蔵大学）「オンライン化による直接的な関わりの減少は人間関係にどのような影響を与えるか」、折田明子ゼミ（関東学院大学）「故人の AI 再現に関する研究～故人を元にしたパーソナル AI が受け入れられる為には」、林秀弥ゼミ（名古屋大学）「キャッシュレス決済の普及を見据えた独占禁止法上の課題」
 - 特別講演：宮本道人（科学文化作家）「ディスタントアートの可能性」

※情報社会研究会・コンテンツビジネス研究会については新型コロナウイルス感染拡大の影響で2020年度の研究会は実施しなかった。

情報通信学会誌 (第38巻第1号～第38巻第4号)

情報通信学会誌第38巻第1号 通算第134号 (第2号と合本)

掲載論文

- ・「監視型情報収集の脅威に対する結社の自由とプライバシー —米国法上の議論を手がかりとして—」 (海野敦史)
- ・「子どもの個人情報の処理にかかる「同意」のあり方」 (松前恵環)

掲載寄稿論文

- ・「新型コロナ禍中の人々の不安・ストレスと抑鬱・孤独感の変化」 (橋元良明)

情報通信学会誌第38巻第2号 通算第135号

特集 2020年度春季 (第42回) 情報通信学会大会/国際コミュニケーション・フォーラム

掲載論文

- ・「Collective Memories of Disasters through Community Radio: A Case Study of the Great East Japan Earthquake」 (金山智子、小川明子)

掲載寄稿論文

- ・「オンライン時代の医療をめぐるわが国の法制度上の課題」 (木暮祐一、牧園昌泰、宮田俊男)

情報通信学会誌第38巻第3号 通算第136号 (第4号と合本)

掲載論文

- ・インターネット通販の拡大と宅配クライス—再配達の有料化の実現可能性に関する調査研究 (塚原康博)
- ・Practical Issues Regarding the Expansion of Japanese Broadcast-Related Content Business in the Chinese Video Streaming Market (大場吾郎)
- ・違法ダウンロードに対する量刑判断—「万引き」との比較から— (松木祐馬、西川開、向井智哉)
- ・憲法35条1項に基づく権利の保障と令状主義の要請との関係 (海野敦史)

掲載寄稿論文

- ・「経済成長とデータ資源：新たな資本ストックとしてのデータの可能性」 (野口正人)

情報通信学会誌第38巻第4号 通算第137号

特集1 2020年度秋季 (第43回) 情報通信学会大会/国際コミュニケーション・フォーラム

特集2 2020年度関西大会

掲載論説

- ・米国の安全保障衛星と政府投資 (菅田洋一)
- ・プライバシーとの関係における憲法13条の要請 (海野敦史)

掲載寄稿論文

- ・プラットフォーム規制の課題—EUデジタル規制改革の検討を中心に— (寺田麻佑)

研究会報告

- ・地域5G研究会 「「5Gサービスの利用動向調査」に関する報告—5G及びローカル5Gに対する市民の意識と課題」

第2巻

Book Title: Perspectives on the Japanese Media and Content Policies

Editors: MINORU SUGAYA (Ed.)

Publisher: Springer

Publication Date: November 2020

About this book:

This book offers a comprehensive overview of Japan's media policies. In light of the attention Japanese media content has attracted in recent years, not only in Japan but also overseas, the book examines the media industry that supports such content. Beginning with the traditional terrestrial broadcasting industry, it also covers cable TV, satellite broadcasting, and over-the-top media services (OTT), as well as media policies for film, animation, games and music.

The Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC), a key media industry regulator in Japan, has been developing broadcasting policies for more than 70 years, and while their traditional policies have not changed in principle, the scope of their business sphere has expanded. For instance, major broadcasting stations in Tokyo, known as key stations, have played an important role in filmmaking with the big four film companies, and have started joint ventures with major OTT, such as Hulu.

This book allows readers to gain a comprehensive understanding of the changes in the Japanese media industry in general and the related policies in Japan, while also offering insights into developments in the individual sectors.

TABLE OF CONTENTS

Preface

Acknowledgements

Minoru Sugaya

Part I Broadcasting Policies

Chapter 1 Terrestrial Broadcasting

Jun Inoue

Chapter 2 The Japanese Public Broadcaster NHK and its Related Policy: The Origin of Public Broadcasting and Changing Policy Environment in the Digital Transformation

Tsutomu Kanayama

Chapter 3 The Developmental Process of Commercial Television Broadcasting Industry

Minoru Sugaya

Chapter 4 Policy on Satellite Broadcasting

Yuichiro Ogawa

Part II Regional Media Policies

Chapter 5 Cable Television

Nami Yonetani

Chapter 6 Community Radio Broadcasting

Tomoko Kanayama

Part III Content Policies

Chapter 7 Film and the other video content (TV and internet video)

Takashi Uchiyama

Chapter 8 Anime Policy: Various Aspects and the Importance of Industry

Mariko Koizumi

Chapter 9 Video Game Policy: Its Background and Its Role in the Industry's Development

Mariko Koizumi

Chapter 10 Music

Stevie Yoshida

Chapter 11 Copyright Clearance

Yu Terada

Part IV Globalization

Chapter 12 OTT (Over the top)

Yoko Nishioka

Chapter 13 Assistance for International Co-Productions and Overseas Broadcasts of Japanese Broadcast Content

Masahiko Kamiya

評議員会及び理事会の開催

<評議員会>

第27回定時評議員会

日 時：2020年6月19日（金）15：00～15：37

場 所：公益財団法人情報通信学会 事務局

※本評議員会は、Web 会議システム「Zoom Cloud Meetings」にて開催した。

出席者：（評議員）神野新、佐藤靖夫、菅谷実、辻正次、松井房樹、山下東子、山田肇
（理事）三友仁志（監事）池川博士、篠原聡兵衛

議 案：

1. 2019年度事業報告について
2. 2019年度決算報告について
3. 2020年度事業計画及び2020年度収支予算について
4. 一部評議員の辞任にともなう評議員の選任
5. 選挙によらない理事の辞任にともなう理事の選任

第28回評議員会

日 時：2021年1月20日（水）10：30～11：27

場 所：公益財団法人情報通信学会 事務局

※本評議員会は、Web 会議システム「Zoom Cloud Meetings」にて開催した。

出席者：（評議員）井上泰浩、神野新、佐藤靖夫、菅谷実、辻正次、永野浩介、廣松毅、
松井房樹、山下東子、山田肇（理事）三友仁志、江寄正邦（監事）池川博士、篠原聡兵衛

議 案：

1. 松井房樹評議員の辞任にともなう、評議員の選任
2. 2021年度における理事の任期満了に伴う次期理事選任の実施要項
3. 理事選挙管理委員の指名
4. 2021年度における一部評議員の任期満了に伴う次期評議員選任の実施要項
5. 評議員候補者選考委員の指名

報告事項：

1. 業務執行状況報告
2. その他

<理事会>

第60回みなし理事会

日 時：2020年4月27日（月）

出席者：（理事）三友仁志、川崎賢一、実積寿也、内山隆、江寄正邦、岡田朋之、林秀弥、
小川純子、河又貴洋、木村幹夫、桑原俊、庄司昌彦、新保史生、高崎晴夫、田中絵麻、
西岡洋子、福富忠和、宮崎久美子（監事）池川博士

議 案：

1. 2020 年度春季（第 42 回）情報通信学会大会及び国際コミュニケーション・フォーラムの開催について

第 6 1 回理事会

日 時：2020年5月29日（金）9：30～11：05

場 所：公益財団法人情報通信学会 事務局

※本理事会は、Web 会議システム「Zoom Cloud Meetings」にて開催した。

出席者：（理事）三友仁志、川崎賢一、実積寿也、内山隆、江寄正邦、岡田朋之、林秀弥、
河又貴洋、木村幹夫、庄司昌彦、新保史生、高崎晴夫、田中絵麻、西岡洋子、宮崎久美子
（監事）池川博士

議 案：

1. 2019 年度事業報告
2. 2019 年度決算報告
3. 2020 年度定時評議員会の招集
4. 選挙によらない理事の辞任にともなう理事候補者の推薦
5. 関西センター委員の交代について
6. 2019 年度情報通信学会論文賞について
7. 入会承認及び退会報告

検討事項：

1. 2020 年度春季（第 42 回）情報通信学会大会及び国際コミュニケーション・フォーラムについて

報告事項：

1. 業務執行状況の報告

その他：

英文ブックシリーズについて

第 6 2 回理事会

日 時：2020 年 9 月 15 日（火）16：00～17：26

場 所：公益財団法人情報通信学会 事務局

※本理事会は、Web 会議システム「Zoom Cloud Meetings」にて開催した。

出席者：（理事）三友仁志、川崎賢一、実積寿也、内山隆、江寄正邦、岡田朋之、林秀弥、大里智之、
河又貴洋、木村幹夫、三本松憲生、新保史生、高崎晴夫、西岡洋子、福富忠和、宮崎久美子
（監事）池川博士

議 案：

1. 委員会委員の選任について
2. 2019 年度情報通信学会論文賞について
3. 2020 年度秋季（第 43 回）情報通信学会大会及び国際コミュニケーション・フォーラム開催について
4. 正会員表彰受賞者について
5. 入会承認及び退会報告

報告事項：

1. 業務執行状況の報告

その他：

1. 国際シンポジウムについて

第63回理事会

日時：2020年12月18日（金）15：00～16：41

場所：公益財団法人情報通信学会 事務局

※本理事会は、Web会議システム「Zoom Cloud Meetings」にて開催した。

出席者：（理事）三友仁志、川崎賢一、実積寿也、江寄正邦、岡田朋之、林秀弥、大里智之、
河又貴洋、木村幹夫、三本松憲生、庄司昌彦、新保史生、高崎晴夫、田中絵麻、西岡洋子、
宮崎久美子
（監事）池川博士、篠原聡兵衛

議案：

1. 第28回（臨時）評議員会の招集について
2. 2021年度情報通信学会大会及び国際コミュニケーション・フォーラムについて
3. 入会承認及び退会報告
4. 終身会員の承認

検討事項

1. 2021年度事業計画と予算について
2. 「情報通信学会誌」投稿規程の改正について

報告事項

1. 業務執行状況の報告

第64回理事会

日時：2021年3月11日（木）14：00～15：16

場所：公益財団法人情報通信学会 事務局

※本理事会は、Web会議システム「Zoom Cloud Meetings」にて開催した。

出席者：（理事）三友仁志、川崎賢一、実積寿也、江寄正邦、岡田朋之、大里智之、河又貴洋、
三本松憲生、庄司昌彦、高崎晴夫、田中絵麻、宮崎久美子
（監事）池川博士、篠原聡兵衛

議案：

1. 2021年度事業計画について
2. 2021年度収支予算について
3. 職員の特別手当の支給について
4. 入会承認及び退会報告

報告事項

1. 業務執行状況の報告

その他

1. 今後の学会運営等について

<常任理事会>

第22回常任理事会

日 時：2020年4月13日（月）16：00～17：00

場 所：公益財団法人情報通信学会 事務局

※本常任理事会は、Web会議システム「Zoom Cloud Meetings」にて開催した。

出席者：三友仁志、川崎賢一、実積寿也、内山隆、江寄正邦、岡田朋之、林秀弥

議 案：

1. 2020年度春季学会大会及び国際コミュニケーション・フォーラムについて

第23回常任理事会

日 時：2020年11月25日（水）14：00～15：30

場 所：公益財団法人情報通信学会 事務局

※本常任理事会は、Web会議システム「Zoom Cloud Meetings」にて開催した。

出席者：三友仁志、川崎賢一、実積寿也、内山隆、江寄正邦、林秀弥

議 案：

1. 学会財政シミュレーションについて
2. 次年度の学会大会及び国際コミュニケーション・フォーラムについて
3. 情報通信学会誌 投稿論文・論説採択率について
4. その他

委員会等の開催

<研究・事業企画委員会>

第1回研究・事業企画委員会

日 時：2020年5月8日（金）

場 所：メーリングリストによる書面会議

出席者：林秀弥、木村幹夫、庄司昌彦、浅利光昭、上原伸元、小川純子、三本松憲生、高崎晴夫、
福田雅樹、宮崎久美子、村上陽亮、森由美子、米谷南海

議 案：

1. 2020年度春季学会大会個人研究発表申込一覧及びプログラム案について

第2回研究・事業企画委員会

日 時：2020年10月19日（月）

場 所：メーリングリストによる書面会議

出席者：林秀弥、木村幹夫、庄司昌彦、浅利光昭、上原伸元、小川純子、三本松憲生、高崎晴夫、
福田雅樹、宮崎久美子、村上陽亮、森由美子、米谷南海

議 案：

1. 2020年度春季学会大会個人研究発表申込一覧及びプログラム案について

第3回研究・事業企画委員会

日 時：2021年2月12日（金）

場 所：メーリングリストによる書面会議

出席者：林秀弥、木村幹夫、庄司昌彦、浅利光昭、上原伸元、小川純子、三本松憲生、高崎晴夫、
福田雅樹、宮崎久美子、村上陽亮、森由美子、米谷南海

議 案：

1. 2021年度事業計画について

<編集委員会>

第1回編集委員会

日 時：2020年6月12日（金）

場 所：メーリングリストによる書面会議

出席者：内山隆、河又貴洋、新保史生、生貝直人、北村智、桑原俊、高口鉄平、斉藤邦史、宍倉学、
篠原聡兵衛、高木聡一郎、高嶋裕一、高田義久、田尻信行、田中絵麻、土屋大洋、中嶋聖雄、
中村彰宏、成原慧、西岡洋子、福富忠和、山口真一、山田徳彦、湧口清隆

議 案：

1. 9月号投稿論文・論説の担当委員及び査読者の選出について
2. 2019年度情報通信学会論文賞について

報告事項：

1. 6月号の進捗状況について

第2回編集委員会

日 時：2020年8月26日（水）

場 所：メーリングリストによる書面会議

出席者：内山隆、河又貴洋、新保史生、生貝直人、北村智、桑原俊、高口鉄平、斉藤邦史、宍倉学、
篠原聡兵衛、高木聡一郎、高嶋裕一、高田義久、田尻信行、田中絵麻、土屋大洋、中嶋聖雄、
中村彰宏、成原慧、西岡洋子、福富忠和、山口真一、山田徳彦、湧口清隆

議 案：

1. 2019年度情報通信学会論文賞の審査について

第3回編集委員会

日 時：2020年9月24日（木）

場 所：メーリングリストによる書面会議

出席者：内山隆、河又貴洋、新保史生、生貝直人、北村智、桑原俊、高口鉄平、斉藤邦史、宍倉学、
篠原聡兵衛、高木聡一郎、高嶋裕一、高田義久、田尻信行、田中絵麻、土屋大洋、中嶋聖雄、
中村彰宏、成原慧、西岡洋子、福富忠和、山口真一、山田徳彦、湧口清隆

議 案：

1. 12月号投稿論文・論説の担当委員及び査読者の選出について

報告事項：

1. 6・9月号（合本号）の進捗状況について

第4回編集委員会

日 時：2021年2月2日（火）

場 所：メーリングリストによる書面会議

出席者：内山隆、河又貴洋、新保史生、生貝直人、北村智、桑原俊、高口鉄平、斉藤邦史、宍倉学、
篠原聡兵衛、高木聡一郎、高嶋裕一、高田義久、田尻信行、田中絵麻、土屋大洋、中嶋聖雄、
中村彰宏、成原慧、西岡洋子、福富忠和、山口真一、山田徳彦、湧口清隆

議 案：

1. 3月号投稿論文・論説の担当委員及び査読者の選出について

第5回編集委員会

日 時：2021年3月11日（水）

場 所：メーリングリストによる書面会議

出席者：内山隆、河又貴洋、新保史生、生貝直人、北村智、桑原俊、高口鉄平、斉藤邦史、宍倉学、
篠原聡兵衛、高木聡一郎、高嶋裕一、高田義久、田尻信行、田中絵麻、土屋大洋、中嶋聖雄、
中村彰宏、成原慧、西岡洋子、福富忠和、山口真一、山田徳彦、湧口清隆

議 案：

1. 2020年度情報通信学会論文賞推薦募集について

<関西センター委員会>

第1回関西センター委員会

日 時：2020年9月7日（月）14：00～15：10

場 所：オンライン会議

※本委員会は、Web会議システム「Zoom Cloud Meetings」にて開催した。

出席者：岡田朋之、谷村要、松原昌大

議 案：

1. 関西センター委員の交代について
2. 2020年度関西大会について
3. 2020年度研究会について
4. その他

第2回関西センター委員会

日 時：2021年1月29日（金）14：30～15：35

場 所：オンライン開催

※本委員会は、Web会議システム「Zoom Cloud Meetings」にて開催した。

出席者：岡田朋之、北村順生、谷村要、長尾友夫、松下慶太、脇浜紀子

議 案：

1. 2020年度第2回研究会について
2. 2020年度関西大会について
3. 2021年度関西センター事業計画について
4. その他